

「地域文化の振興と発信について（仮題）」取りまとめのイメージ（案） （目次）

．地域文化を振興する意義

地域文化に関する基本認識を示し、地域振興に関する社会状況や国民の意識を踏まえつつ、いま、なぜ地域文化の振興が必要なのかその意義を明らかにするとともに、地域文化の振興の担い手について整理する。

- 1．地域文化に関する基本認識
- 2．地域文化振興の背景
- 3．「文化力」と地域文化の関係
- 4．地域の現状
- 5．地域文化の振興の担い手

．地域文化の現状

「文化に関する世論調査」や「地方における文化行政の状況について」等の各種資料をもとに、地域文化の現状について明らかにする。

．地域文化の振興に当たっての課題と方策

政策部会で議論された地域文化振興の方策に関する視点に基づき、各課題ごとに優れた事例を取り上げ、課題に対する考え方や対応策について分析・検討する。

．地域文化の振興のための方向性

地域文化振興のための課題と具体的な取組事例の分析・検討を踏まえ、今後、地域文化を一層振興していくための方向性と方策について、関係者に期待される役割等について提示する。

提言案作成チームによる検討を踏まえて作成

「地域文化の振興と発信について（仮題）」取りまとめのイメージ（案）

・地域文化を振興する意義

1．地域文化に関する基本認識

地域文化は、地域で生まれ、育まれ、継承されていくものであり、その担い手は地域住民である。

地域文化は国全体の文化の基盤である。

地域文化には郷土の愛着や誇りを培いコミュニティを形成する力がある。

文化には、子どもへの教育的効果があり、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも役立っており、一層の少子高齢化社会をむかえる我が国の地域社会にとって重要である。

地域文化の振興には、最低限の文化活動の基盤整備を全国的に図るという「文化活動の機会の確保」と地域の独自の文化を高める「文化の自律性の確保」という二つの側面を考慮すべき。

地域における文化活動はともすると固定されたメンバーにより活動がなされがちなので、外部の団体との交流などにより相互に刺激を受け合うことが重要。

地域の文化は、それぞれの地域によって異なるものであり、地域文化の振興には模範解答はあり得ない。

2．地域文化振興の背景

（1）国民の要望の高まり

今日では経済的なモノの豊かさよりも、精神的なこころの豊かさを人々は求めており、文化には楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを感じ、人生を豊かにする力がある。

より身近な場所で様々な文化活動を享受し、自らがその創造に参加したいという要望が高まってきている。

（2）社会的な要請

文化は豊かな人間性を涵養し、正義感や公正さを重んじる心や、他人を思いやる心などを育む。

現代社会では、人々の疎外感や孤立感が高まり、信頼や共感からなる生活の場としての地域の連帯意識が薄れ、人と人とのふれあいが希薄となっており、人と人とを結び付け、相互に理解し、尊重しあえる共に生きる社会を築くことができる文化活動が求められている。

情報技術の進展により、孤立化やコミュニケーション能力の減退などその影の部分も

指摘されており、文化活動を通じた表現力やコミュニケーション能力の向上が期待されている。

文化の東京一極集中の是正が必要である。

(3) 伝統文化の保存と伝承

経済成長や都市化の進展の中で、長年にわたり地域で保存・伝承されてきた祭りや歴史的町並み等が急速に失われつつあり、これらの保護が緊急の課題である。

(4) 文化の画一化への危惧と文化多様性の確保

文化の画一化への危惧に対して、地域の独自性ある文化づくりが必要であり、日本全体として文化の多様性を確保すべきである。

国際化が進展する中で、異なる文化への理解力を高める必要がある。

(5) 国及び地方による地域再生への取組

国において、地域の産業、技術、人材、観光資源、自然環境、文化、歴史など地域が有する様々な資源や強みを知恵と工夫により有効活用しながら、文化的・社会的なつながりによる地域のコミュニティの活性化を図ることを通じて、個性ある地域づくりを進める「地域再生推進プログラム」が推進されている。こうした取組は、地域文化の振興においても重要である。

3. 「文化力」と地域文化の関係

(1) 文化力の定義

文化には、人に感動を与え、人を動かす力がある。

地域文化の持つ「文化力」には、地域の文化的資源だけでなくそれを支える「地域の心意気」も含むのではないか。

(2) 経済力と文化力

経済と文化の関係は、近年ますます密接になっており、経済力と文化力は車の両輪として社会を発展させる原動力である。

文化活動や文化財には、消費拡大、観光等による交流人口の増大による経済波及効果がある。

経済のソフト化・サービス化が進展する中で、文化に関連する産業は新たな需要の喚起や雇用の創出など地域経済の活性化に役立つ。

(3) 地域文化が日本の文化力等に果たす役割

各地域において育まれてきた多様で特色のある文化が日本の文化の基盤を形成している。

我が国が国際社会において自らのアイデンティティを確立し発信していくために、歴史や風土を反映した特色ある地域文化の果たす役割は大きい。

4. 地域の現状

(1) 地域をめぐる現状

長引く経済不況や大都市への人口流入などにより、地域の経済や社会が疲弊してきている。日本全体として地域間の格差が大きくなってきている。

少子高齢化が進行し、人間関係の希薄化やコミュニティの崩壊などかつては大都市圏の問題とされた社会的課題が地域においても現れてきている。

市町村合併の進展により住民サービスの維持・向上、行政の効率化が図られる反面、従来の地域コミュニティの崩壊などが危惧されており、それをつなぎとめるために地域文化の振興が必要になっている。

(2) 地域の取組

地域が分権化、多様化、個性化の方向を目指して、新しい発想で地域の特性を掘り起こし、個性を競い合い、互いに発展していく時代である。

地域の再生を目指して、住民、NPO、企業等が行政と連携・協力し、地域づくりや文化活動に参画してきている。

情報技術（IT）の進展により、地域がインターネット等を活用して、地域の特色ある取組を発信してきている。

(3) 地方自治体による文化振興への取組

地方自治体が「まちづくり」の中核に文化を位置付け、様々な手段により地域の活性化を目指した取組が行われつつあり、文化を通じた地域振興策が図られている。

指定管理者制度の導入に伴い、現在地方自治体では条例の整備等が行われているが、自治体は文化芸術の振興という観点に十分配慮しつつ、適切な運用を図ることが重要である。

5. 地域文化の担い手

(1) 地域文化の主役は地域住民

地域文化を育み、大きく発展させていく主役は地域住民である。

(2) 民間の役割も重要

地域内外の文化団体やNPO、民間企業も大きな役割を果たしている。

住民、文化団体、民間企業・NPO等、行政はパートナーシップを結ぶべき関係であり、相互に連携・協力して、それぞれがその役割を果たしていくことが重要である。

地方大学、地域研究者、教師、地方紙等を地域の文化ネットワークに繋げて、地域文化の中心的役割を果たしてもらうべきである。

(3) 行政機関はサポート役

地域における文化活動は地域住民等が主体的に行うものであり、行政機関は地域住民等の活動を支援していくことが大切である。

地域住民が地域文化を日常的に推進し、地域住民にはできないことを市町村が、市町村ができないことを都道府県が、都道府県ができないことを国が支援するという考え方が基本である。

文化活動は行政区域を超えて広域的な地域において展開されることがあるため、行政区域に限定せず、地形的・歴史的に形成されてきた「文化圏(域)」にも留意しておくべきである。

・地域文化の現状

〔 「文化に関する世論調査」や「地方における文化行政の状況について」等の各種資料をもとに、地域文化の現状について明らかにする。 〕

(1) 内閣府「文化に関する世論調査」の概要

例：地域の文化活動への要望は、文化施設の整備・充実に次いで文化に関する情報提供が第2位

(2) 地域の文化関係予算の推移

例：地域の文化関係予算は平成5年度をピークに減少してきている

例：その主な原因は文化施設建設費の減少である

(3) 文化施設等の現状

例：文化会館の数は過去10年間で約1.8倍の増加(文部科学省「社会教育調査」)

例：メインホールの平均稼働率は52.0%(公文協による調査)

例：自主文化事業の入場料シェアは51.3%(公文協による調査)

(4) 文化活動の現状

例：芸術家人口は増加傾向にある(総務省「国勢調査」)

例：公演回数は約10万回、そのうち約37%は東京(芸能白書2001)

・地域文化の振興に当たっての課題と方策

これまで政策部会で議論された課題を整理し、課題ごとに優れた事例を取り上げ、課題に対する考え方や対応策について分析・検討する。

視点1 地域文化を振興するために地域の「文化力」をいかに結集するか

地域文化振興計画の策定等を通じた地域の「文化力」の結集
住民の民意をくみ取っていく仕組みが重要。

(課題1) 住民の民意を反映するシステムを作り、住民の参加意識を高める

(事例) 地域文化振興計画等を住民が主体となって作成した事例

例：福岡県春日市における文化振興マスタープランの策定

地域の文化資源を地域住民がまず知ることが重要。

地域住民自身による地域の文化資源の再発見・再認識

(課題2) 地域住民自身が認識していない地域固有の文化を掘り起こす

(事例) 文化的資源としての地域遺産を再認識することでまちづくりにつながった事例

例：ひがし大雪アーチ橋友の会

民間と行政等との連携

(課題3) 民間と行政の役割分担を明確にしつつ、相互の密接な連携を図る

(事例) 民間と行政の事業連携

例：NPO法人ダンスボックス(公設民営)

文化以外の分野との連携

(課題4) 福祉などの文化以外の分野との連携により、「文化力」を発揮する

(事例) 文化の持つ福祉的效果によるまちづくりの事例

例：奈良市音声館(シルバーコーラスによる病気の予防)

視点 2 . 地域文化活動を活性化する人材をいかに育成し、確保するか

文化芸術の実際の担い手となる創造者の育成も重要であり、具体的には専門家を全国に還流させて外部から刺激を与える仕組みづくりが必要。

地域文化活動を実際に担う人材の育成・確保

(課題 5) 文化芸術の創造者を全国に還流させる仕組みづくり

(事例) 地域では普段見ることの難しい文化芸術を全国で巡回公演を行っている事例

例: JCDN (ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク) の「踊りに行くぜ!!!」

地域文化活動を支える人材の育成・登用

(課題 6) アートマネジメントを担う人材の育成・登用

(事例) 長期間に渡りレベル別に実施している実践的なアートマネジメントの研修の事例

文化ボランティアの推進と活用

(課題 7) 地域住民が文化ボランティアとして参加してもらいやすい仕組みをつくる

(事例) 地域住民を文化資源として活用し、文化活動に参画してもらっている事例

例: 能登川町立博物館 (地域学芸員)

(事例) 文化ボランティアとして活動してもらうインセンティブを付与している事例

例: 可児市 (地域通貨 ala)

大学等の教育機関との連携

(課題 8) 人材育成機関としての大学等を活用し、大学の地域貢献をうながす

(事例) 大学等の地域貢献と大学の専門性や人材を活用した取組の事例

例: 東京藝術大学の取手アートプロジェクト

文化行政・公立文化施設の運営にあたる人材の育成・登用

文化に愛着を持った人を育成・登用することが重要。

(課題 9) 文化に愛着を持った人に実際に文化行政・公立文化施設の運営にあたってもらう

(事例) 指定管理者制度で NPO 法人等を指定している市町村の事例

例: 富良野市による NPO 法人富良野演劇工房の指定

(事例) 文化と地域に愛着を持った人に文化会館の運営を任せている事例

例: 小出郷文化会館

視点3 . 文化活動を支える拠点・資源をいかに活性化するか

文化施設（文化会館、美術館・博物館等）の活用

（課題10）文化施設のネットワーク化を図る

（事例）地方の文化施設同士が文化交流を図っている事例

例：新潟県文化振興財団と石川県音楽文化振興事業団

文化財の活用

（課題11）文化財の活用を図る

（事例）伝統芸能

（事例）伝統的建造物群

学校施設や社会教育施設（公民館等）の活用

（課題12）既存の遊休施設の有効活用を図る

（事例）廃校等の文化施設への転用により地域の文化活動の拠点になっている事例

例：京都芸術センター（旧明倫小学校）

子どもだけでなく青少年も含めて地域文化を継承し、世代間の乖離を減少させることが重要。

視点4 . 子ども・青少年の文化活動への支援をどのように進めるか

学校での取組において鑑賞・実技といった芸術体験に加えて、表現教育が重要。

学校との連携により子ども・青少年の芸術体験・表現教育を推進する

（課題13）学校との連携

（事例）学校と文化芸術団体等との連携

例：サンライズホール（朝日町）

例：NPO法人「芸術家と子どもたち」（若手芸術家の出張ワークショップ）

（事例）学校と企業との連携

例：TOA株式会社による中学生職場体験「トライやるウィーク」協力

学校・教員の理解がなければ学校での取組は成功しない。

学校の教員は非常に多忙なので、その手間や時間をすこしでも減らせるようにサポートする仕組みづくりが必要。

- (課題14) 教員の文化への理解を促進し、教員を支援する仕組みをつくる
(事例) 学校の教員向けのワークショップを実施している事例

学校以外での子ども・青少年の文化活動を支える仕組みの構築

- (課題15) 子ども・青少年の文化活動支援
(事例) 親子で楽しめる芸術体験の事例

例：NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク(親子でいっしょに聴くコンサート)
高齢者と子どもを結びつける仕組みづくりが重要。

- (事例) 高齢者と子どもを結びつける取組の事例
例：伝統文化こども教室事業

視点5 . 文化活動に関する情報収集・発信をどのように進めるか

地域住民への適切な情報提供

- (課題16) 情報提供
(事例) 地域住民に効果的な文化情報提供をしている行政・NPO等の事例
(事例) 文化芸術活動に参加したいときに気軽に相談できる組織や人材の事例

文化活動関係者及び全国に向けての情報発信

- (課題17) 情報発信
(事例): マスメディアへ積極的にアプローチしている事例
(事例) インターネットやミニコミ紙を活用した情報発信の事例
例：広島県立美術館(美術館ボランティアによる美術館ホームページの運営)

視点6．文化活動への資金的援助をいかに確保するか

公的支援の活用

民間資金の活用

(課題18) 企業メセナ

(事例) 地元出身者にこだわる長期間にわたる支援活動

例：山梨メセナ協議会

(課題19) 企業の社会貢献活動

(事例) CSR(企業の社会貢献活動)に積極的に取り組む企業の事例

例：株式会社フェリシモ(「神戸学校」の開催などにより、メセナアワード2004において文化庁長官賞受賞)

個人による支援の活用

(課題20) 個人による支援の活用

(事例) 個人の意志により、納税額の一部の用途を文化活動に限定する事例

例：市川市の市民活動支援制度(個人住民税の1%分の用途限定)

・地域文化の振興のための方向性

地域文化振興のための課題と具体的な取組事例の分析・検討を踏まえ、今後、地域文化を一層振興していくための方向性と方策について、関係者に期待される役割等について提示する。

提言案作成チームによる検討を踏まえて作成